



とらいあんぐる



2019 年 6 月

一音会ミュージックスクール発行

「英語」

客員教授であるプリドノフ先生ご夫妻が、5月17日（金）に来日され、5月27日（月）に帰国されました。

10泊11日の滞在の中で、多くの時間を一緒にさせていただきました。

10回の夕食のうち、8回をともにしました。昼食を一緒にした日もあれば、一緒にお買い物をした日もあれば、ミスターを整体にお連れした日もありました。

いつも来日のたび、一緒にさせていただきます、たくさんお話しをさせていた

だいています。

その中で、私がいつも、それも何度も、思うことがあります。

「私の英語がもっと上手だったらなあ」

一音会には、英語の堪能な生徒さん、ご家族の方が多いので、うちあけるのがとても恥ずかしいのですが、私は英語がとても苦手です。

プリドノフ先生ご夫妻との会話も、まったく流ちょうではありません。へたくそな英語で、がんばって会話します。

私の英語の基礎は、すべて学校で学

んだ英語です。

大学を卒業するまで、一度も海外に行ったことがありません。大学卒業後も、旅行で海外に行ったことはありません。

海外に行ったのは、学会に参加した時だけ、いつも4～5日程度の滞在です。

私の英語は、生きた英語の対極にあるような、いわば「机で学んだ英語」です。

机の上で積み上げてきた「受験英語」は、案外、得意です。ですが、私の時代の「受験英語」は会話の力に結びつきません。それは、多くの方がよく知るところでしょう。



受験を終え、大学に入った時、私は「これからは自由に会話ができる人になりたい」と切に思いました。

大学に入学後すぐ、私は通いやすそうな英会話学校を見つけ、通いはじめます。

通いやすさで選んだA英会話学校は、ネイティブの先生を中心に、6～7人の生徒がグループトークをする授業でした。

先生は進行役であり、主に話すのは生徒です。生徒の多くは、私と似たレベルの大学生でした。

進行役の先生は、なるべく生徒に発言させようとし、先生は少ししかしゃべってくれませんでした。

自分のことを棚にあげていいですが、日本人大学生のへたくそな英語をきいていても、全然、ききとりの練習にはなりません。

しかも、毎週、顔を合わせる大学生同士、だんだん仲良しになっていきます。そうすると不思議なもので、英語を介さなくとも、なんとなくコミュニ

ケーションがとれるようになってしま
うのです。

そのうち、ある一人がいます。

「オレら、ジェスチャーばっかり上
手になってない？」

ハッとしました。彼のいう通りだっ
たからです。

私は彼の言葉をきいてすぐ、その A
英会話学校をやめます。

でも、2年近くを、その A 英会話学
校に費やしてしまいました。

A 英会話学校では、「ネイティブの先
生の英語をたくさんきけるレッスンで
なければならない」、「自分の英語を直
接、なおしてもらえるようなレッス
ンでなければならない」という、貴重な
教訓を得ました。

その後、見つけた B 英会話学校は、
ネイティブの先生とマンツーマンで話
をするところでした。

ここは良さそうでした。1対1の会
話ができます。

予約制で、自分の好きな時間に、空
いている先生を紹介してもらえるシス

テムでした。

最初のうちは、とても良いレッス
ンだと思いました。

が、だんだん不満が出てきました。
通って1か月もすると、自己紹介のよ
うな浅い会話に飽きます。少し深い内
容を話したくなる段階に入った時です。

先生と話が合わないことが、あまり
にも多いのです。私が話したいことを
話しても、なかなか理解されず、会話
が続きません。かと思うと、先生が話
題にするテーマに興味を持てなくて、
気の利いた返答ができず、会話が進ま
ないこともあります。



たとえばこんなこともありました。

「アヤコは、今、何に関心があるの？」

その日の先生は、絵に描いたような陽気なアメリカンでした。

たずねながら、真っ黒に日焼けした屈託のない笑顔を見せ、筋肉質の肩を意味ありげに、ちょっとすくめます。

私の友人には絶対にいないタイプです。

当時、卒論のテーマで頭がいっぱいだった私は、つい、「卒論が気になっている」と、バカ正直に答えてしまいました。

「へー」

そして、沈黙です。

いった直後には、「しまった！」と後悔していました。この会話はもりあがらないだろうという予感がありました。

先生は何もいいません。

会話をつなげなくてはなりません。

会話のレッスンですから。

別の話題に切り替えることも考えましたが、自分でいってしまった手前、

その話をしなくてはならない、とも思いました。

最近、読んだ論文に自分の考えをおりませながら話していると、案の定、彼はどんどん口が「へ」の字になり、つまらなそうな顔になっていきました。もう、あいづちもうってくれません。

急いで、この話を終わらせなければと、私は焦りはじめます。

明らかにつまらなそうな相手の前で話をするのは、本当につらいことでしたが、途中で終われない感じにもなっていました。私は汗だくになりながら、一息に結論まで話し終えていました。

途中からきいていなかったと思われる彼は、窓の外に向けていた視線を私に戻し、作り笑顔でいいました。

「へー・・・そう・・・で、それ、おもしろいの？」

そこで、空気を入れ替えるように、唐突にいいます。

「ところでさ、スーパーボール、興味ある？」

私の認識では、スーパーボールは、

ゴム製のボールです。「スーパーボール？ なぜ？ 縁日ですくうアレ？」

私は、混乱し「え〜と、え〜と」と言葉が出ません。

先生は、夢中で何かしゃべっています。早口で自分の話に熱中しています。

きいていて、「ああ、これは私の知っているスーパーボールと違うな」ということだけは、ぼんやり分かりました。

が、意味が分からないので、何ひとつ、適切な返事はできませんでした。

「スーパーボール」が、アメリカンフットボールの有名な試合であることを知ったのは、ものすごく後のことでした。

そのくらい、話がかみ合わないこともあったのです。「これでは会話になっていない」と思いました。

いつしか、「話が合わない・・・」という気まずいムードに陥るのをさけるため、食べ物の話や旅行の話といった無難な話題に逃げるようになってしまっていました。

私は、「そんな話がしたくて英会話を

習っているのではないのだ」ということに、おそまきながら気づいてしまいます。

そして、B 英会話学校もやめてしまいました。

私は B 英会話学校で、「話が合わない相手と会話を長くもたせるのはつらい」という、英語以前の教訓を得ることになりました。

次に選んだ C 英会話学校は、また全然、違うレッスンでした。

A と B の英会話学校で得た教訓とともに、私が時間をかけて選んだところです。

C 英会話学校は、テキストにあるストーリーを自宅で読んできて、レッスンの中で、そのストーリーに関する会話をおこなう、というやり方でした。お題が決まっているので、話が合わなくて気まずい思いをすることもありません。このやり方は私にとってすごく楽で、このレッスンが自分に合っているような気がしていました。

しかし、しばらくすると私は気づい

てしまいます。

この作業が、実は私が長年やってきた「受験英語」に近いことに。

ああ、ぐるっとまわって、同じところにたどり着いているじゃないか？！と。

迷走しているうちに、とうとう私は大学院の博士課程になってしまいました。

国際学会にも行かなければならなくなっています。なのに、英会話の力は相変わらずさっぱりなのです。

発表準備をしつつも、ゆううつでありません。私の不安はふくらむばかりでした。

ある先生に、その不安をうちあげたことがあります。

私の母の恩師でもある、心理学者の波多野誼余夫（はたのぎよお）先生でした。ニコニコ笑いながら、先生はこうおっしゃいました。

「あのね、どう話すか、じゃなく、何を話すか、だよ。重要なのは内容だよ？」

生意気にも私は反論します。

「内容が大事というのは、もちろん分かっています。でも、内容をがんばっても、英語が下手なせいで、だいなしにしちゃうんじゃないかと思うと、モチベーションが下がるんです」

先生は、笑顔をひっこめました。私がいかに分かっていないかが、お分かりになったのでしょうか。

真剣な顔で、こうおっしゃいました。

「この話をききたいと心から思うような内容であればね。語学力が不満足であっても、人はきく耳を持つものだよ」

「そうかなあ・・・」

結論からいうと、本当にそうだったのです。それはきく側になってみて、実感することでした。

人のことをいえる立場じゃありませんが、英語圏じゃない発表者の発表は、とてもききとりづらいものです。

でも内容がききたいものであれば、独特の英語であっても、ガマンして、必死でききとります。

逆に、ききとりやすい美しい言葉であっても、内容が興味を持たないものであれば、きこうと思わないのです。

私はC英会話学校を最後に、英会話学校ジプシーを完全にやめてしまいました。それは、波多野先生の言葉通りであることを、実感したからなのかもしれません。

プリドノフ先生ご夫妻は、いつも私のへたくそな英語を一生懸命きいてくださいます。

私が言葉を探している間、いくらでも待っていてくださいます。

時々、伝わりそこなうへたくそな英語の冗談に、豪快に笑ってくださいます。

私たちは、音楽の話にとどまらず、家族の話、自分の生い立ち、昔の失敗談、政治の話も宗教の話も、ありとあらゆる話をしてきました。

こんなにへたくそな私の英語を、一生懸命きいてくださるのは、10数年にわたって、毎年、こうして時間をともにして、心を通わせてきた歴史があ

るからだ、私は思っています。

私もまた、拙いヒアリング力ながら、ご夫妻のおっしゃることは、すべて理解したいと願うのです。私にとって、大切な人だからです。

だから、ききとれなかった時は、「私に分かる英語でいいなおせ」と、遠慮なくいってしまうのです。彼らは「ソーリー」といいながら、ちゃんといいなおしてくれます。彼らのいいなおし方が、年々、うまくなっているのです、複雑な心境です。

私がこの先、英会話の力を飛躍的に向上させることはないのかもしれませんが。

でも、「この人の話をききたい」と思ってもらえるような人になる努力だけは、死ぬまで続けたいと思うのです。

(江口 彩子)



◆「ピアノ発表会」が近づいてきました

6月1日（土）より、「発表会のおしらせ」をお配りしています。まだお持ちでない方は、ピアノの担当の先生か、ショパンはうす受付に、ご請求ください。

今年のピアノ発表会は、下記の通りです。

8月2日（金）・3日（土）・4日（日）・5日（月）

かつしかシンフォニーヒルズ アイリスホール

（京成線「青砥」駅より徒歩5分）



「かつしかシンフォニーヒルズ」は、3年前にもピアノ発表会で使用した会場です。音響の良さで定評のあるホールであり、一音会が第一希望としてきたホールです。

現在、お配りしている「発表会のおしらせ」の中に、「ピアノ発表会・申し込み用紙」が入っていますので、ご記入ください。レッスンの際に、「ショパンはうす」受付もしくは担当の先生に、ご提出ください。本部にFAXしていただくのもけっこうです。本部FAX番号：03-3957-8864。ご提出の〆切は、6月23日（日）です。

この用紙は、お手数ですが、ご参加になれない方にも提出していただきます。過去に、申し込み用紙をお出しになっていない生徒さんを不参加としていたところ、用紙を提出し忘れていただけだった、ということが多くありました。そういった事態を防ぐために、不参加の場合にも、念のため、その旨の意思表示をいただきたいと思っています。お手数ですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

大きな舞台をふむ経験は、重要です。音楽が人を魅せる芸術であることを、お子さま自身が体感できる機会になります。また、やり遂げ、大きな拍手をもらう経験は、ピアノを続ける上での大きなモチベーションにもなります（小さな部屋でピアノと向き合っているだけでは、ピアノの意義は理解しにくいものです）。

一音会の発表会は、1年に一度です。お子さまの成長のはやさを思いますと、正直、少なすぎると思っています。1年、欠席してしまいますと、まる2年、発表の機会がないことになってしまいます。ぜひ、欠かさずご参加ください。



申し込み用紙には、参加希望日を書いていただくようになっています。4日間の開催としておりますのは、ご予約と重ならない日を選んでいただきたい思いもございます。

時間帯（部）につきましては、ご希望にそうようにいたしますが、部によって極端に人数が偏ってしまった場合のみ、個別にご相談の電話をおかけすることがあります。

どうぞご理解ください。

お申し込みいただいた後で、日程的なご都合が変わった場合は、できるだけ早くご連絡ください。

◆リハーサル・トライをおこないます

「ピアノ発表会」当日は、時間の関係で、リハーサルの時間をご用意することができません。また、当日のリハーサルよりも、少し前にリハーサルをおこなった方が「もっとこうの方が良かった」という、リハーサル時の反省を本番に生かしやすいということ、私どもは経験から確信しています。

そのために、「リハーサル・トライ」をおこなっています。「リハーサル・トライ」とは、文字通り、リハーサルです。あわせて、人前で演奏する経験を積む、グランドピアノで演奏してみる、普段のレッスン以外の先生に見てもらい、等といった目的も持っています。どれも、演奏にみがきをかけるために、大切なことばかりです。

くわしくは、「発表会のおしらせ」にはさみこんであるプリントをごらんください。ピアノ発表会参加予定の生徒さんは、無料でお受けいただくことができます。

イメージとしては、「ミニ発表会」です。ご希望いただいた時間帯の生徒さんの中で、発表していただきます。

グループには、経験豊かな先生がつきそい、進行にあたります。もし演奏に改善点があった場合には、担当の先生に連絡をします。生徒さんご本人に直接伝えて混乱させることはありませんので、ご安心ください。

本番のような気持ちで、事前に一度、演奏をしておくと、やはり違うものです。それは、これまでに「リハーサル・トライ」を活用された多くの方がおっしゃることで

すべての生徒さんが、本番で、持てる力を存分に発揮することができますよう、私どもスタッフも、全力でお手伝いいたします。

「リハーサル・トライ」の場所は、基本的には「ヘンデルはうす」103か204のお部屋を予定しています。

各曜日に、「リハーサル・トライ」の時間帯をもうけますので、ご都合の良い日時をお選びになって、お申し込みください（発表会のお申し込みとは別に、お申し込みいただく必要があります）。

お申し込み〆切は6月23日（日）です。ご不明な点は、本部まで直接、おたずねください（03-5966-7711・担当：矢島、伊藤）。

◆リトミック演目をさらに拡充します

2年前までは、まだピアノのレッスンを受講されていない「ベビークラス」や「どんぐりクラス」の生徒さんの発表の演目として、リトミック発表の演目をもうけていました。通称「ひよこちゃん」です。黄色いTシャツを着て、ひよこに扮して、リトミックで学んだ動きを発表していただくため、「ひよこちゃん」と呼ばせていただきました。かわいらしい「ひよこちゃん」演目は、長く一音会の発表会の目玉でした。

昨年は、少し大きな生徒さん（主に年中さんから1年生）にも、リトミック発表の場を経験していただくとうと、「キリンさん」演目を作りました。本当に立派な発表でした。ご参加された生徒さんのご家族だけではなく、ごらんくださった客席の方々にも、よろこんでいただくことができました。たくさんのおほめの言葉をいただきました。今年も、「キリンさん」の発表をおこないます。

今年も、さらに年長の生徒さん（主に小学校2年生以上）の演目を、新たに作ります。「リトミック・アドバンス」と呼びます。

すでに、リトミックのクラスでは、練習がはじまっていますね。練習用のDVDもお配りしています。レッスンでの練習だけでなく、おうちでもDVDを観ながら、練習してみてください。

DVDは、無料でお配りしています。まだお持ちでない方は、担当の先生からもらってください。DVDではなく、スマートフォンなどのモバイルでご覧になりたい方は、リトミックのお部屋の扉にQRコードを貼っていますので、それを読み取って、ご覧ください。

リトミック発表（ひよこ、キリン、アドバンス）にご出演される生徒さんが、ピア

ノ演奏でもご出演される場合、ピアノ発表の参加費のみでけっこうです。実質、無料でご参加いただけますので、ぜひふるってご参加ください。



◆うたぐらぶの発表もおこないます

すでにお知らせしてきましたように、今回、「うたぐらぶ」の生徒さんも、「ドレミのうた」でご出演いただきます。

リトミック発表同様、「ドレミのうた」にご出演される生徒さんが、ピアノ演奏でもご出演される場合、ピアノ発表の参加費のみでけっこうです。実質、無料でご参加いただけますので、ぜひご参加ください。

また、「ドレミのうた」の練習用 CD をお配りしています（無料です）。おうちでも CD をきいて、お歌をおぼえてください。CD をたくさんきいていただければ、今からでもご参加に間に合います。ご興味がおありの方は、ぜひ「うたぐらぶ」のご体験にいらしてください。CD は、「うたぐらぶ」のレッスン内でお配りしています。

うたぐらぶ レッスンスケジュール

第4土曜日	13:00~14:00 (幼児~小学生)
第3日曜日	11:00~12:00 (幼児~小学生)
〃	12:25~13:25 (幼児~小学生)
第4日曜日	10:40~11:40 (幼児~小学生)
〃	13:00~14:00 (幼児~小学生)

◆グループ演目のリハーサルについて

リトミック発表のリハーサルとして2日、「ドレミのうた」のリハーサルとして1日、下記のように予定しています。お忙しい中、また暑い時期ではありますが、どちらか、あるいは両方、ご都合をつけておこしてください。

「リハーサル・トライ」同様、「リハーサル」は無料です。

1回目 7月15日（月・海の日）

ひよこちゃん	11:00～12:00
キリンさん	12:30～13:30
リトミック・アドバンス	13:45～15:15

2回目 7月28日（日）

ひよこちゃん	14:30～15:30
キリンさん	15:30～16:30
ドレミのうた	16:30～17:30
リトミック・アドバンス	17:30～19:00

場所 ひびきホール
(豊島区南長崎5-8-12)

「ひびきホール」は
西武池袋線「東長崎」駅、南口
より徒歩7分、

「まいばすけっと」の3階です。



舞台上上がることがはじめての生徒さんも、多くいらっしゃることでしょう。

本番で、びっくりして泣いてしまい、練習してきたことが発揮できないことがあります。

広い場所でやってみたり、知らないお友だちといっしょにやってみたり、本番に近い環境に慣れておくことをおすすめします。ご家族の皆さまのご協力を、よろしくお願いいたします。

◆発表会費の引き落としについて

発表会費は、7月29日(月)の8月分お月謝引き落とし時に、お月謝と一緒に、お引き落としさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◆時節のご挨拶など ご遠慮いたします

入会時にも「ガイドブック」にてお知らせしておりますが、一音会では、お中元、お歳暮、発表会のお礼などを、スクール、先生個人に関わらず、一切ご遠慮させていただいております。どうぞご理解のほど、お願いいたします。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。